

令和5年3月14日
午前10時開議
議 場

1. 議事日程（第19日目）

日程第 1 一般質問

1. 塩田 真一
 - (1) 上天草市ごみ処理中継施設整備家基本計画について
 - (2) 新ごみ処理施設整備事業に向けて
2. 何川 雅彦
 - (1) 再生可能エネルギーの活用について
 - (2) 市住宅リフォーム等支援事業補助金の充実について
 - (3) 大矢野川の氾濫による冠水被害への対策について
3. 田中 辰夫
 - (1) 令和4年6月議会一般質問要旨「上天草総合病院関係」について
 - (2) 令和4年9月議会一般質問要旨「旧姫戸町・龍ヶ岳町の持続可能な地域振興」及び「松島総合運動公園の整備計画」について

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（14名）

議長 桑原 千知

1 番 北垣 洋	2 番 井手口隆光	3 番 木下 文宣
4 番 何川 誠	5 番 塩田 真一	6 番 嶋元 秀司
7 番 田中 辰夫	8 番 何川 雅彦	9 番 宮下 昌子
10 番 西本 輝幸	11 番 高橋 健	12 番 小西 涼司
15 番 田中 万里		

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（0名）

な し

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市 長 堀江 隆臣 副 市 長 村田 一安

教 育 長	高倉 利孝	総 務 部 長	山下 正
市 民 生 活 部 長	水野 博之	経 済 振 興 部 長	山本 一洋
企 画 政 策 部 長	坂田 結二	建 設 部 長	岩永 裕一
健 康 福 祉 部 長	濱崎 裕慈	水 道 局 長	桑原 成明
上天草総合病院事務部長	須崎 朝幸	教 育 部 長	赤瀬 耕作

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議 会 事 務 局 長	山川 康興	局 長 補 佐	山崎 大勝
主 幹	四丸 雄介		

開議 午前10時00分

○議長（桑原 千知君） 出席議員が定数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

日程第 1 一般質問

○議長（桑原 千知君） 日程第1、一般質問。

通告があつておりますので、順次、発言を許します。

5番、塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） おはようございます。

5番、塩田真一、議長のお許しがありましたので、一般質問をさせていただきます。

今回も、前回、前々回に続きまして、松島中継施設及び新ごみ処理施設に関連した質問をさせていただきます。上天草市としても、今後、大きな予算が必要になってくる大事な案件でもあり、負担をいただく市民の皆様の理解を得られるよう、連合議員の1人として真剣に取組み、議論してきた内容を含めながら質問をいたします。

現在、松島中継施設整備計画が策定されていますが、その進捗状況についてお聞かせください。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） おはようございます。よろしく願いいたします。

ごみ処理中継施設整備基本計画の策定にあたっては、天草広域連合が進めている新ごみ処理施設の稼働が令和9年4月予定とされていたため、本市におけるごみ処理の在り方及び事業費の全体規模等を把握するための基本計画として、本年1月に策定したものでございます。今後、さらに内容を精査し、天草広域連合等の関係機関と協議を行い、新ごみ処理施設稼働後の本市のごみ処理体制の構築に努めていきたいと考えているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 2月の連合議会で、同僚の議員から中継施設に関する質問がありました。その答弁の中で、馬場連合長から、新ごみ処理施設の受入れ体制など詳細が決まらないと、中継施設の方向性は定まらないという趣旨の発言がありました。そういうところもあると思いますが、むしろごみ処理の過程で最初にある収集分野を担う中継施設の方向性が決まっておかないと、その後の処理を担う新施設を整備するのに難しいところがあるのではないかという感覚を持っております。

仮に、馬場連合長の言葉のとおり、新ごみ処理施設の受入れ体制がはっきりしないと、中継施設の方向性が定まらないのであれば、上天草市でせつかく策定したその中継施設の計画も意味がないような気がしますし、わざわざ今策定する必要があったのか。中継施設の整備の全体の中、あるいは、天草圏域で目指す新ごみ処理施設を含めた新たなごみ処理体制の中で、今回策定した計画は、どのような位置づけにあるのか。計画の概要を含めて、お尋ねをいたします。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） お答えいたします。

本計画は、新ごみ処理施設稼働後の本市における一般廃棄物収集運搬計画及びごみ処理中継施設の必要性について検討する基本計画としての位置づけであり、事業規模、将来必要となる予算の把握等を加味しますと、準備が早過ぎたとは考えておりません。

計画の概要としましては、本市のごみ総排出量をもとに、中継施設を整備する場合と、新施設へ直接搬入した場合の費用比較や住民サービスの在り方など総合的に比較検討を行ったものであり、中継施設を設置し、ごみ処理を行ったほうが本市にとってメリットが大きいと判断しているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） また、同じ連合議会で、昨年6月よりあった天草市の一部地域のごみの搬入の可能性について、同僚の議員より質問があったのですが、連合より、先日初めて上天草市、天草市で協議に入ったと聞いていると答弁がありました。どのような職員構成による協議なのでしょう。今後、どのように協議を進めていく予定なのか、お尋ねをいたします。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 天草市との協議につきましては、天草市からの申入れを受け、2月14日に、本市会議室において、天草市倉岳町及び有明町一部の一般家庭からの直接持込みを、本市が計画しているごみ処理中継施設へ搬入することについて協議を開始したものでございます。

どのような職員構成ということにつきましては、両市の関係部課長及び業務担当者ということになります。2月の協議の際には、天草市が想定している一般家庭からの持込み量について提示を受けたところであり、施設規模の変更を含め、天草市からの搬入が可能か否か。具体的な協議につきましては、今後、進めていくこととなります。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） そのときに質問に立った同僚の議員より、そのような市の施策に関わる事項は、市長連合長のお考えが重要という趣旨の発言がありました。そういう協議の場を持つということは、市長も、天草市の一部のごみを搬入することに一定の理解を示されているという理解でよろしいのか。

また、12月議会で、市長が、中継施設は連合で運営するのがいいと思うが、人的労力などから連合では中継施設は厳しいのではないかという趣旨の発言をされたと記憶しております。その協議結果次第ではあると思いますが、共同処理連合で実施するという可能性が改めて出てくるのではないのでしょうか。市長の考えをお聞かせください。

○議長（桑原 千知君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 天草管内のごみ処理に関する共同処理に関する自治体なので、そういう申出があれば、検討はもちろんしないといけませんし、双方がウィンウィンでいければ、それにこしたことはないので、受入れ自体については、やっぱり前向きに検討すべきだとは考えています。今、天草市のほうからの申入れというか、情報というか、内容については、年に100トンの受入れがどうかというようなお話を聞いています。事務方としては、コンサルのほうに、ちょっと意見の申入れをやっているということなんですが、あれから私もちょっといろいろ考えてみたんですけど、結局日毎の処理量に関すると、天草市が0.4、上天草が3.4トンということになります。割合としては、1対8.5ということなので、8.5倍の処理量を上天草がやるという施設になりますので、仮に、広域連合に運営をお願いするにしても、金銭的負担はもちろん、人的負担も当然、上天草のほうが圧倒的にやらなきゃいけないので、様々な経費の面だけで考えると、正直言うと、上天草単独でやったほうが上天草の負担としては少ないんじゃないかという思いでおります。

もちろん運営方針に対して、やはり8.5倍の処理をするのを上天草市の方針主導で出来ないというのも、何か将来やはり難しい面が出てくるんじゃないかなという思いもあって、今の段階では、そういう思いで私はおります。そういう部分を含めてちょっと協議を行っていきたいと思います。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） まだ協議を始めたばかりでしょうが、連合議員の立場を踏まえれば、新ごみ処理施設の運営体制にも少なからず影響があると考えられますので、なるべく早めに結論をいただきたいと思います。

引き続き、この松島中継施設ですが、1月16日に連合で議員勉強会がありました。その際、説明いただいた職員の皆様には改めて感謝を申し上げます。

さて、その中で、以前、市議会で一般質問があった資源物は既存のプレス機などを流用し、中継施設から熊本方面へ直接搬出したほうがよいという意見がありました。執行部からは、10トン車両が転回するための敷地の確保や、機器導入の費用対効果の課題があり、検討はしていない

ということでした。それ自体には一定の理解をしたところです。

では、品目を限定してお尋ねをいたしますが、新聞紙やチラシ、古着は、現在、松島地区清掃センターで、何かプレスなどの処理をして搬出しているのでしょうか。わざわざプレスなどをせずに、熊本方面へ搬出出来そうですが、どうでしょうか。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 資源ごみの搬出先について、昨年12月の市議会では、全てを本渡地区清掃センターへ搬送していると答弁しておりますが、現在の松島地区清掃センターにおける資源物等の処理状況は、缶類については圧縮処理をし、新聞紙やチラシ等の紙類・古着等については圧縮処理を加えず、一定量を集積の上、広域連合の契約事業者へ直接搬送しております。ペットボトル・発泡スチロール・プラごみ類については圧縮せず、そのまま本渡地区清掃センターへ搬出している状況でございます。

新ごみ処理施設整備事業においては、マテリアルリサイクル施設を整備し、2市1町で排出される資源ごみの全量を処理する計画でございます。仮に、本市の紙類等の資源物を中継施設で集積の上、熊本方面へ直送する場合、往復の搬送距離が現在64キロから約140キロとなること。昨年度の紙類等の売却量312.97トン、売却益107万6,015円を参考とすれば、燃料費を含めた搬送費に対する収益が見込めませんので、新施設へ搬送し、広域的に集約のうえ処分することが効率的であるものと判断しているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 資源物などを中継施設から直接熊本方面へ排出せず、わざわざ一旦本渡の新施設に搬出する理由は、執行部の答弁を踏まえれば、もともと上天草市が全量新施設へ搬出する計画で連合の新ごみ処理施設整備事業に参加し、独自で処理すると、新施設の処理規模である焼却施設日量95トン、リサイクル施設日量26トンの定義が揺らぐためというものです。

そこで疑問なのが、苓北町は堆肥センターで生ごみを独自処理しており、先日、連合に確認をしましたところ、この生ごみの量は、新施設の規模計画に算入されているとのことで、簡単に言うと、新施設には、実際に搬入されない苓北町の生ごみの量が計上されています。つまり、執行部が言うように、処理規模は絶対的なものではないのではないかという印象を受けております。なぜ、上天草市では、苓北町のように独自で処理出来ないのでしょうか。見解をお尋ねいたします。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 本市の資源ごみを独自処理することも可能であると考えますが、資源ごみの売却益が年間総額400万円程度であることを考慮しますと、缶類の処理に必要な圧縮設備の導入など、リサイクル施設の整備に約6億円程度の追加費用を試算しており、本市としてのメリットがなく、新ごみ処理施設へ搬送のうえ処理することが経済的な処理方法と考えております。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 私も、少し中継施設について調べてみたのですが、広島県呉市は中継施設を所有していましたが、廃止をしました。もともと設置した理由は、松島中継施設と同じように新施設の搬入台数を削減することが目的でした。しかし、新施設への搬入台数の減少と施設維持経費を勘案した結果、中継施設を維持する意義が薄れたことから、令和3年に廃止をしているようです。そういう意味で、設置時点で費用対効果の薄い松島町中継施設は特殊な存在と言えると思います。私自身、市民サービスを維持するために大事な施設であり、整備自体には反対ではありません。

また、この新施設規模のことですが、現実的な問題として、ごみ減量化の目標達成が厳しいとの指摘を受ける中で、12月の市議会で市長がおっしゃったように、中継施設におけるごみの搬出調整というのも必要であろうかと思えます。令和9年度の新ごみ処理施設稼働に向け、上天草市の最大の課題は、輸送コストの軽減です。そのような様々な観点を踏まえ、長期的に見たとき、松島中継施設の整備にあたっては、上天草市が資源物などを独自で搬出することも検討する必要があると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） ごみ処理に係る課題検証の結果、缶類等を圧縮する施設新設に係る整備費用、さらに、古着類、紙類等の資源ごみについても、一定量を集積するためのスペース確保、搬送費用など総合的に考えた場合、資源物についても、新ごみ処理施設へ搬入することが得策であるとの考えでございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 先日の連合議会で、施設へのごみ搬入量について質問がありました。松島地区清掃センターの搬入量の推移ですが、見込みではありますが、令和4年度は令和3年度より微増、令和2年度と比較すると微減ということで、ほぼ横ばいといったところです。連合の同僚議員と話す中では、上天草市が1番ごみ減量化に取り組んでいるのではないかという意見もいただきました。そのような市民の皆様、職員の努力にも関わらず、横ばいというのは、ごみ減量化がいかに難しいかということをお話していると思います。

同じ連合議会でも、ごみの減量化の目標達成は現実的に厳しいのではないかととれる発言がある中で、昨年12月の市議会では、新施設の運営費負担において、ごみの目標値をオーバーした量に関する負担については、一定程度、その市・町が責任を持つべきということで、堀江市長と考えを共有出来たと考えております。その際、市長からは、このオーバー分を含め災害ごみなど、協議において想定していないことについては、2市1町共通認識を持つ必要があります、改めて協議を申し入れると答えをいただいております。申入れはしていただいていると思いますが、連合の厚生常任委員会で、連合の担当課は、協議の話は来ていないと発言をしております。残念ながら、いまだその協議の必要性は、2市1町、連合とも共有出来ていないと思います。改めて連合の会議の場などでの確認をされておく必要があると思うんですが、市長、いかがでしょうか。

○議長（桑原 千知君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 今回の件の答弁の前に、先ほどの松島の中継施設の建設意義というか、理由というのが、運搬車両の削減とおっしゃいましたけど、それだけではなくて、当然持込みごみの対応とか、あるいは、やっぱり事業系のごみをそのまま運搬すると年間に7,000万ぐらいの費用負担が増えるわけです。それを総合的に勘案しての施設建設の意味でございますので、そこは、改めて御理解をお願いしたいと思います。

今、ごみの目標値を超えた部分に関する協議についての御質問にお答えします。塩田議員がおっしゃったように、御質問いただいたときに、私も答弁したとおり、やっぱり構成自治体である以上は、目標値に向けて努力はすべきだと思うし、もし仮に、一部の自治体の努力がどうしても不足して経費がかかるということであれば、それ相当の責任は負うべき形にはしておく必要があるのかなとは思っています。もちろん協議も申入れをしているんですが、今、関係課の担当の中では、やっぱり統一したごみの削減目標とか取組について協議を行っているようなので、そのうち、そういう協議は必ずやらしてもらわないといけないと思っていますので、改めて私からも催促をしたいというふうには思います。

ただ、正直申し上げて、ごみの削減に対する目標のばらつきがあります。それぞれの自治体が多分恐らく持ち寄った目標値がそのままになっているので、やっぱり均等な目標値の再設定を行う必要もあるのかなと思っていますので、それも含めて連合で協議をやっていただきたいと思っています。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） ごみの減量化は、上天草市が適正なごみ処理経費を負担するために、上天草市民や担当課が懸命に取り組んでいると理解をしております。上天草市も当然目標達成できると断言出来ないところもあると思いますが、ほかの市町が多めに出したごみの経費を支払うという構図は市民に理解されないと思います。ごみ量の推移を見れば、現実的にそういうことがあり得るわけで、特に、上天草市は、想定する以上の経費を支払う可能性が出てきますので、早急な解決をお願いしたいと思います。

引き続き、ごみ減量化以外で、担当部局として、上天草市のごみ処理の課題としてどういうものがあるかと捉えておりますか。例えば、市職員の方が普段業務をする中で改善したい点。また、住民からこうしてほしいとか、そういうことがあれば教えてください。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 本市のごみ処理にかかる市民からの意見等については、管内の漁港施設、堤防等における釣り客等に対してのごみの持ち帰り、不法投棄対策に係るさらなる周知活動の徹底について御意見を受けており、担当課としては、ごみの減量化が最大の課題と考えております。

さらに、新ごみ処理施設稼働後、中継施設を整備した場合の整備維持管理費用、中継施設整備期間中の新施設への廃棄物直送に係る市民サービスの維持、費用負担増に対する対応、車両の往

来による渋滞化等が今後の課題であると考えております。これらの課題を最小限に抑え、行政サービスの低下、市民や事業所負担増とならないよう関係機関と協議検討を行い、市民に対して正確な情報の提供など、スピード感を持った対応を進めていく所存でございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 上天草市は、処理は連合で行っておりますので、そういう上天草市での課題というのは連合と共有出来ているのか、教えてください。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 天草広域連合では、定期的に構成市町の担当課長会議、担当者会議が持たれているところであり、先般の会合においても、生ごみの水切りについて、天草圏域一体となつて取り組んでいくこととするなど、ごみの減量化を含め、各市町での取組事例や課題等を共有の上、対策を協議する機会を持っているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 先日、連合議会において、私が委員会に提出した新ごみ処理施設整備運営に関する施工管理業務の債務負担行為を削除する修正案が可決されました。この施工管理は、連合の示した仕様書のとおり建設がされるか。監督する通常の施工管理の業務に加え、新ごみ処理施設の運営計画を審査するところまでが業務となっている特徴的なものです。連合がコンサルなどの専門業者に発注し、そのサポートを受けながら実施する。

建設においては、最終の詰めの業務であり、運営においては、20年間の基礎となる大変重要な業務です。当然、これまで連合の作成した仕様書は、そのような上天草市をはじめ、2市1町の要望・課題も踏まえて作成されてきたと思います。それらの施工管理を通し、適正に建設・運営に反映させていく必要があるのですが、連合担当課は、そのような要望・課題を取りまとめていない応札者が提案してくれると発言を繰り返しています。そもそも何をベースにこれまで仕様書をつくってきたのか。何をベースに何をどうコンサルに施工管理をさせようとしていたのか。今の状態では、上天草市はじめ構成市町の要望が適正に反映されないのではないかと危惧をしており、ほかの議員の賛同を得たわけですが、今後、連合が同様の予算を計上するにあたって、上天草市としても、連合と協議のうえ整理をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 天草広域連合において、昨年8月17日に、新ごみ処理施設整備に係る入札公告が示され、設計建設維持管理運営業務に係る仕様書、いわゆる要求水準書も示されているところでございます。施設整備に係る要求水準書については、令和2年8月に有識者、各構成市町、広域連合で組織する新ごみ処理施設整備事業運営事業者選定委員会で、約2年にわたり協議のうえ策定されたもので、当該要求水準書を満たす提案を応札業者に求め、施工管理業務受託者には、その要求水準書に示した提案に基づく施設整備の施工管理を受託いただくものであり、必要な予算と理解しております。改めて予算計上される場合には、広

域連合と協議のうえ整理させていただきたいと考えております。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 上天草市としても、連合と情報共有を行い、公表された仕様書で十分満足であるということは理解しましたが、今回の入札の趣旨を聞く限りでは、それ以上のものを事業者提案で求め、評価していくのではないのでしょうか。連合執行部は、構成市町の要望・課題を取りまとめていない。応札者が提案してくれるという趣旨の発言をしているのは事実です。また、施工管理は、運営計画の審査を含んだものと答弁する一方で、施工管理は建設のみ、運営は関係ない。運営と建設は直接関係しないともとれる一貫性のない発言をしております。この施工管理業務の趣旨もそうですが、そもそも建設と運営を一体的に発注するDBO方式に対する連合執行部の理解に疑問が生じているというのも、今回の修正につながっていったと考えております。どのような点が仕様書に反映されているかなど、全体的なところもなりますので、詳しくは再度連合にて確認をさせていただきます。

先ほどは、上天草市の課題ということで触れましたけれども、上天草市含めて連合の課題というのは、焼却灰など灰の引受け先です。先日の連合議会で、ごみ処理施設と最終処分場が併設されているところを視察しましたが、それもあってか、最終処分場が必要ではないかという意見もありました。

お尋ねをしますが、過去に上天草市内に、合併前も含めてですが、連合9町が所有した最終処分場は存在したのでしょうか。過去に存在した場合は、それ以降整備されなかった理由、過去に存在しなかった場合も、同じく理由について、どのようなことが考えられるのか、併せてお尋ねいたします。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 天草広域連合に確認したところ、これまで上天草市管内に許可を受けた最終処分場は存在していなかったものと聞いております。最終処分場につきましては、排水問題などの不安要素による許可等への影響、観光地としてのイメージダウンなど様々な観点から、本市で受け入れることは困難であったものと考えます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 先日の連合議会で答弁をいただいておりますが、改めて、現段階において、上天草市内に最終処分場を整備する可能性について、堀江市長の考えをお尋ねいたします。

○議長（桑原 千知君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 改めてお答えしますが、今現在、市内に処分場を整備することについては検討もしておりませんし、適当な場所もあるとも思っておりません。

以上でございます。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） 最終処分場は、排水などの問題もあって、特に、漁業などの盛んな天

草地域では、上天草市もそうだと思いますが、他の地域と比べ、抵抗感が強いのではないかと考えています。実際に、天草の最終処分場は過去転々と変わっているようで、この度、連合の新施設を建設する本渡地区清掃センター近隣地域とは、地域に最終処分場はつくらないという約束が存在しております。そういう天草の最終処分場の過去建設地との約束を踏まえて、連合が新ごみ処理施設整備事業を進めるにあたり、前連合長は、天草に最終処分場はつくらず、灰は安定的に天草の外で資源化など処理を行うという方針を示されたと聞き及んでおり、さきの連合議会での堀江市長の答弁を踏まえれば、上天草市にとっても有意義な方針であると考えております。そして、これを基本に、これまで連合は事業を進めてきました。

一方で、灰の引受け先を連合だけで探すのは非常に困難で、連合は入札実施にあたり、施設の運営期間を20年間、応札者がその確保等提案をするような条件をつけ、その方針の実現、最終処分場整備のリスクを排除しようとしてきました。そして、昨年7月に、この整備運営事業の予算370億が連合議会の承認を受けたわけです。その時点では、先ほど申し上げたとおりの条件がありました。しかし、昨年末に、応札予定者の提案を受入れた結果、20年のうち最初の5年を除く15年は、連合で灰の引受け先を探すことになるような条件に変更されてしまいました。今後、このことについては、連合から回答を求めていくこととなりますが、今回、連合では、苓北町長が代われ、構成する2市1町の市町長では、堀江市長が最も経験のある首長となりました。この灰の資源化の課題も含めて、こういう過去の経緯を踏まえながら、連合の方針について意見できる首長は、堀江市長だけではないでしょうか。これまで以上に、市長の連合における立場というのは、重みを増しているのではないかと思います。最後に、その辺りの市長のお考えをお聞かせください。

○議長（桑原 千知君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 今回の広域連合の入札の公告については、当初は、初めの5年間は資源化を必要とし、残りの15年間は資源化を基本としつつ連合の認める範囲内で灰の最終処分も認めることとして、受入れ先については、20年間を通して運営事業者が確保するという内容でスタートしたと伺っています。

ところが、令和4年11月に、質問の受付期間があるんですけども、一部の入札参加予定者から、いわゆる事業者の責任が重いとの意見があって、連合としては、複数社による競争性の確保という観点から、その意見を一部認めることとして、当初5年は同じなんですけど、残りの15年は連合SPC、あるいは、運転事業管理者、この3者が協力をして、灰の資源化先の受入れ先を確保するという条件に変更したという報告をいただいています。

今現在、応札期間が終了しておりますので、今、具体的に動くことというのは、もうかなり限られてきますけども、当然契約先として適当かどうか。その審査審議が行われる中で様々な意見交換も出てくるかと思えます。今、御質問があった内容について、我々の議会でもこういう質問が出ているということをお知らせして、副連合長として発言できる部分には発言をしていきたいと思っておりますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（桑原 千知君） 塩田真一君。

○5番（塩田 真一君） ありがとうございます。今回、中継施設や連合の新ごみ処理施設など、新たなごみ処理体制について質問させていただきました。特に、連合の新ごみ処理施設については、この事業の根幹でもあった灰の処理が不透明な中、事業を進められているのには、大いに疑問を感じております。

特に、この点は、そもそも最終処分場はつくりたくないから、灰の受入れ先が探すのが難しいから、そういう条件をつけていたのではないか。建設予定地の住民への不信感にならないか。15年分の経費はどこへ行ってしまったのか。その期間灰はどうするのか。何でも応札者の提案と整理し、事業者に寄り添う連合の事業の進め方では、同じ370億の予算を使って、似て非なる事業が出来上がるのではないかと不安を感じております。

苦渋の判断ではありましたが、一度立ち止まり、整理する必要があるのではないかと考えまして、修正案を提出し、その結果、議会の賛同を得たわけです。370億の事業方針が大きく変わろうとしている中で、それが上天草市にどういう影響があるのか。天草圏域にどういう影響があるのか。十分に整理がつかない状態でこの予算を執行することが、この事業に負担する上天草市民の皆様、上天草市議会にも説明がつかないと考えております。

また、新施設の運営費負担については、ごみ量オーバー分の取扱いへの見解の違いを解決しなければ、上天草市の負担が増えるのが分かっている事業を進めるということになります。そういう中で、松島中継施設の現在の運用計画というのも本当に利にかなっているのか。もし、天草市との共同処理になった場合、ますますその整備が必要になるわけで、ここに来て、新たなごみ処理体制には曖昧な部分が多く出てきたと感じております。そして、本当に上天草市にメリットがある体制なのか。構成市町の足並みがそろっているのか、疑問を感じております。当然全てを新ごみ処理施設稼働までに解決する必要はないと思いますが、執行部には、よりよい新たなごみ処理体制の実現に向け、これまで以上に連合との協力体制を密にしながら取り組んでいただきたいと思っております。

このことにつきましては、今後も質問することになると思っております。よろしく申し上げます。

これで、一般質問を終わります。

○議長（桑原 千知君） 以上で、5番、塩田真一君の一般質問は終わりました。

○議長（桑原 千知君） 次に、8番、何川雅彦君。

何川雅彦君から、資料の配付について申出がありましたので、会議規則第157条によって、これを許可します。

○8番（何川 雅彦君） よろしく申し上げます。8番、何川雅彦、議長の許可が出ましたので、通告に従い一般質問を行います。

1番目は、再生可能エネルギーの関係で一般質問をさせていただきます。

国においては、2020年10月、当時の菅総理が、2050年までにカーボンニュートラルを目指すと言われました。このことから、脱炭素社会の実現に向け、2030年までに、少な

くとも100か所の脱炭素を実現する先行地域を創出することなどを盛り込んだ地域脱炭素ロードマップを作成されました。このロードマップに沿って、脱炭素先行地域等に対しては、自治体が再生可能エネルギーの活用による脱炭素化の取組を計画的に進めやすくするため、2025年度までに、地域への資金支援を手厚くし、複数年にわたって継続的に支援することとされています。

本市においては、ゼロカーボンシティ宣言を行われており、また、2016年熊本地震では停電が発生し、避難所において市民が不安な時間を過ごされた経験があります。再生可能エネルギーの活用は、脱炭素への貢献のみならず、地震、台風、大雨などによる大規模停電を未然に防ぐための電源の確保につながり、災害の影響を抑制することにもなります。

堀江市長が掲げる持続可能なまちづくりを行うためには、時代の潮流に乗り、発電も化石燃料依存から再生可能エネルギーへ移行し、電力の調達も購入から生産することに移行するなど、消費する地域から生み出す地域へ移行していく必要があるものと考えます。国のカーボンニュートラルの推進に応じて、全国各地の自治体においては、再生可能エネルギーを活用した脱炭素への取組を加速させています。

本市でも、令和4年5月に、SDGs未来都市に選定され、6月には、ゼロカーボンシティ宣言を行われており、具体的な取組を考えておられるものと思われま

す。そこで、最初の質問です。本市においては、環境基本計画を策定し、併せて地球温暖化防止実行計画を策定されています。この計画に基づいた具体的な取組とスケジュールについてお伺いします。よろしくお願

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） よろしくお願

います。本市では、令和3年3月に、地球温暖化対策実行計画を内包した第2次上天草市環境基本計画を策定し、5つの基本目標と29の数値目標を設定し、その中で再生可能エネルギーの導入促進等の施策により、低炭素社会の実現に向け、取り組んでおります。

具体的な取組としては、市民の皆様が住宅に太陽光発電設備の設置を行う際の補助金交付による設備導入の推進、公共施設への太陽光発電設備の設置、公用車における低公害車の導入促進等を行っているところでございます。また、CO2削減につながるマイバッグ利用の促進及び可燃ごみの水切りなど、ごみの減量化に関連した取組を推進しております。今期の計画年次は、令和12年度までの期間を設定しておりますが、令和4年6月に、ゼロカーボンシティ宣言を行ったことで、設定期間や具体的な取組及び数値目標の見直しが必要になるものとして、令和5年度中の改定を予定しているところでございます。

以上です。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 国の方針に沿って、全国各地の自治体が自分事と捉え、2050年カーボンニュートラルを目指し、再生可能エネルギーの活用など脱炭素を推進されています。本

市においても、SDGs 未来都市計画の中でも取り組むことを取上げています。再生可能エネルギーの活用に向けたこれまでの取組を御教示いただきたいと思ひます。

○議長（桑原 千知君） 企画政策部長。

○企画政策部長（坂田 結二君） よろしくお願ひいたします。

再生可能エネルギーを活用したこれまでの取組といたしましては、人口減少と高齢化が進む湯島におきまして、令和2年度にNTTデータ経営研究所などが参加して構成をしております上天草市湯島スマートアイランド推進協議会が実施主体となりまして、上天草市湯島スマートアイランド化事業を実施するなど、再生可能エネルギーの導入が検討されてきたところでございます。

令和3年度におきましては、本市の温暖化対策を効果的に進めるために、環境省の補助金を活用しまして、再エネ導入目標策定事業を実施しまして、市全体の温室効果ガスの現状、将来予測、脱炭素シナリオを検討するとともに、脱炭素化に至るための再エネ導入目標について検討を行ってきたところでございます。

さらに、令和4年度におきましては、令和3年度の結果を踏まえまして、地域経済環境と再エネ導入を両輪で進めていくために、総務省の補助金を活用しまして、官民連携で行う地域エネルギー会社による分散型エネルギーインフラプロジェクトマスタープラン策定事業を実施しまして、地域エネルギー会社を設立した場合の事業性や実施体制について検討を行っているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 今の答弁で、上天草市としても、全国各地の自治体に遅れることなく、自分事と捉え、2050年カーボンニュートラルに貢献すべく、再生可能エネルギーの活用に向けた取組を、令和2年度から本年度まで実施されていると理解いたしました。再生可能エネルギーの活用は、大規模災害が頻発する今日において、災害時における電力のレジリエンス対策としても有効であります。本市においても、このことを鑑み、令和4年9月に、オムロンソーシャルソリューションズ株式会社と公共施設における防災及び脱炭素化の実現を目的とした連携に関する協定を締結して、大矢野総合体育館、松島総合センターアロマに太陽光発電を設置されたものであります。

また、国においては、2030年度までに、設置可能な建物の約50%以上に太陽光を設置することとされています。

そこで、次の質問です。国は、2050年カーボンニュートラルを見据え、2030年度までには、設置可能な建物の約50%以上に太陽光を設置する考えです。本市においては、熊本地震において停電となり、市民に不安を抱かせた反省を踏まえ、特に、避難所となる公共施設に太陽光設備を設置し、災害時における電力のレジリエンス強化を行ったほうがよいと考えますが、市の考えをお願ひいたします。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 公共施設への太陽光発電設備の設置につきましては、防災の

観点も含めて推進すべきものとして、本年度、松島総合センターアロマ及び大矢野総合体育館に太陽光発電設備が設置されたところであり、今後も、公共施設を管理する各所管部局と協議の上、推進していく必要があるものと考えております。

令和5年度に予定している第2次上天草市環境基本計画の改訂におきましても、公共施設への太陽光発電設備の設置について、計画に盛り込む予定としており、公共施設の中でも、避難所に指定してある施設、管理者や職員が常駐している施設及び耐震性の有無など、まずは、設置可能施設を抽出し、計画的に取り組む必要があります。

議員御発言のとおり、熊本地震や災害対策での反省を踏まえ、自然エネルギーを有効に生かしながら、市民の皆様が安心して生活できる環境を整えていくべきであると考えているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 世界で気候変動が起き、異常気象が発生している中で、地球温暖化の防止を誰かがやるだろうではなく、自分事と捉え取り組んでいく必要があると考えるところで

す。
次の質問に移ります。先ほど答弁があったとおり、本市においても、再生可能エネルギーの活用を検討されているものと思われま

○議長（桑原 千知君） 企画政策部長。

○企画政策部長（坂田 結二君） 令和3年度の再生可能エネルギー導入可能性調査につきましては、市全体の温室効果ガスの現状、将来予測、脱炭素シナリオを検討するとともに、脱炭素化に至るための再エネ導入目標について検討を行ったところでござ

います。
その検討結果といたしまして、風力、潮力、太陽光など再生可能エネルギーがありますが、本市に適した再生可能エネルギーといたしましては、安価で取組みやすい太陽光が適していると整理をしたところでござ

います。
再エネのポテンシャルにつきましては、環境省のシステムを活用して、太陽光発電のポテンシャルを算出した結果でござ

います。
本市の2050年時点での年間の電力使用量を将来推計すると、9,154万キロワットアワーでありまして、使用量の約2.2倍のポテンシャルがあると考えられます。また、2013年に19万4,000トンであった本市の温室効果ガス排出量につきましては、今後、追加的な対策を見込まないまま推移した場合につきましては、2050年には9万9,000トンまで減少することが分かっております。これは、人口減少による活動量低下などにより減少に転じるものでありますが、さらに、省エネの推進、民生部門電源の再エネ化、再エネEVの導入、森林吸収

量の可視化を積極的に進めることによって、2013年と比較して、99.5%削減ができ、2050年カーボンニュートラル達成が実現できそうであることが予測されます。

ただし、99.5%削減にあたっては、民生部門電源の再エネ化を最大限に推進する必要があります。具体的には、最低でも太陽光発電の設置可能な既存住宅の約50%に当たる住宅約2,600戸、公共系建築物の42%、農地の22%に再エネを導入する必要があることが明らかになったところでございます。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 本市の電力を賄うための太陽光発電のポテンシャルが十分であると理解いたしました。十分なポテンシャルを有しているならば、有効に活用したほうがよいと考えます。

この太陽光発電による再生可能エネルギーの活用にあたっては、九州において、佐賀県唐津市、宮崎県延岡市、鹿児島県いちき串木野市等が、熊本県内においては、熊本市と小国町で自治体等が出資する地域新電力会社を創設し、脱炭素を図りつつ、電力量の流れを域内にとどめ、経済を循環させようと環境と経済の両輪で取り組んでいます。

冒頭お話ししたとおり、持続可能なまちづくりを実現するための一つの対策として、電力においても、購入から生産へ移行させることを検討すべきものと考えます。

最後の質問に移ります。全国で脱炭素と経済循環を図るため、再生可能エネルギーを活用する地域新電力会社が創設されています。また、国においても、創設に係る支援を手厚く行っていると伺っております。本市においても、脱炭素と経済を循環させるとの考えから、令和4年度に地域新電力会社の事業化可能性調査を実施されているものと思われれます。まだ事業実施中であるものとするが、市として地域新電力会社が必要であるか。考えをお伺いします。

○議長（桑原 千知君） 企画政策部長。

○企画政策部長（坂田 結二君） まず、本市の経済の状況について、説明させていただきます。

環境省のデータによりますと、本市の地域経済循環分析の結果でございますけども、2018年の上天草市総生産につきましては700億円であるのに対しまして、エネルギー代金として約83億円、そのうち電気料金として約13億円が域外に流出していることが明らかになっております。域外に流出している電気料を市内でとどめ、地域経済を循環させるためには、域内で電気をつくり、消費することが欠かせないことでありまして、そのためには、再エネ導入を積極的に進めていく主体が必要だと考えられます。

その有効な一つの手段といたしまして、地域新電力会社の設立が考えられることから、先ほど答弁したように、令和4年度に、官民連携で行う地域エネルギー会社による分散型エネルギーインフラプロジェクトマスタープラン策定事業を実施したところでございます。その結果、従来の地域新電力のビジネスモデルでは、電力卸売市場からの電力調達を前提にしているため、赤字となる可能性が高いと考えられます。一方、自社で再エネを開発する場合には、事業当初に、公共施設への電力供給を中心とするモデルを採用することで、当面の経営については安定させるこ

とができると考えられます。

ただ、自社で再エネを開発する場合の課題といたしまして、設備投資に係る資金調達において、事業開始からの借入金が多いものであるため、経営上の事業収支について懸念されることから、これらを考慮しつつ、民間の会社設立の可否につきましては、慎重に検討していきたいと考えております。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 必要と考えておられ、地域エネルギー会社の仕組みについても理解いたしました。国の手厚い支援が2025年度までとすると、早めに取りかかったほうが、市の負担も軽減され、域内の経済循環も進むものと考えます。ぜひ、前向きに取り組んでいただきたいと思います。

一方、全国で地域新電力会社が創設されていますが、経営が悪化し、廃止されていることも事実であることから、会社設立には、十分に議論をして慎重に進めていきたいとも思います。

地球温暖化が進み、世界各地では異常気象が発生しています。このことを鑑み、世界では地球温暖化防止に取り組まれているところであり、温暖化防止には、再生可能エネルギーの活用が有効な手段の一つであると考えます。本市におきましても、国の2050年カーボンニュートラル実現に向けて貢献できるように努力していただくことをお願いして、次の質問に移ります。

次は、市住宅リフォーム等支援事業補助金の充実についてです。上天草市の住宅リフォーム等支援事業補助金は、20万円以上の対象工事費に対し、20万円を限度額に10分の1に相当する額を補助するものであります。本制度は、毎年4月中旬から4月下旬までの期間で申請を受け付け、予算を超えた場合、抽せんとなるなど大変人気が高い補助事業となっております。令和2年、令和3年は、約1,000万円の予算。例年は、500万円程度の予算額となっております。この補助金制度は、補助金を受ける住民だけでなく、リフォームの受注先である事業者への恩恵があり、地域経済の振興につながるものと考えます。上天草市では、この補助金制度について、経済効果等の事業分析を行っていますでしょうか。行っていれば、市として、どのように評価しているか、お伺いします。

○議長（桑原 千知君） 建設部長。

○建設部長（岩永 裕一君） よろしく願いいたします。

住宅リフォーム等支援事業につきましては、市民の住環境の向上及び市経済の活性化を図ることを目的として、住宅のリフォーム等に係る費用の10分の1を補助するもので、20万円以上の工事が対象となり、限度額が20万円を補助金として交付しております。

これまでの実績は、平成23年度の事業開始から令和4年度までの合計で補助申請件数が434件、交付額が6,567万5,000円を補助金として支出しております。

経済効果につきましては、これまで11年間の総工事費が8億7,541万9,065円となっております。これら全てが市内の多種多様な施工業者によって実施されており、建設事業者などを中心に、一定の地域経済の活性化があったものと考えております。

また、実施した家屋につきましては、住環境の向上につながり、事業効果はあったものと評価をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） この質問を取上げたきっかけは、隣の天草市の住宅リフォーム助成事業に着目したからであります。

資料を御覧ください。この資料にあるように、毎年500件以上の事業実績があります。天草市の場合、10万円以上の対象工事費に対し、20万円を限度額に10分の2に相当する額を、天草宝島商品券、今は電子商品券もあると思いますが、この商品券で助成をして、もちろん施工は市内の業者に工事をさせるということでありまして。この資料の1枚目を見て分かるように、平成26年から令和3年まで件数が減ることがありません。毎年500件以上施工しても、まだニーズが絶えないということでありまして。令和3年度の決算額で、補助の総額が9,500万円、553件です。工事金額の総額は、約7億6,500万円となり、補助額の8倍以上の経済効果を生んでおります。上天草市も1.3倍なんですけども、規模的に、この天草市の規模で8倍以上の経済効果を生んでいると。

商品券と市内業者の施工なので、このお金が天草市内で循環をする。まさに、経済の好循環であると思います。これを上天草市に置き換えれば、単純に世帯数の規模で考えますと、天草市の3分の1としまして、上天草市では、年間170件程度、予算は3,000万、工事額は2億5,000万程度は毎年見込めると思います。現状、上天草市は現金の補助であります。今議会では、先日の議案質疑のときに、地域通貨の可能性にも言及されております。

質問に入ります。住民サービスの向上のみならず、地域振興にも寄与するこの補助金制度を、今後、拡大またブラッシュアップする考えはあるでしょうか、お伺いします。

○議長（桑原 千知君） 建設部長。

○建設部長（岩永 裕一君） お答えいたします。

御質問の予算の増額の考えにつきましては、現在、住宅リフォーム等支援事業のほかに、住宅等に係る支援制度としまして、浄化槽設置助成事業、空き家等対策事業、土砂災害危険住宅移転促進事業、戸建て木造住宅耐震化支援事業、危険ブロック塀撤去支援事業などを実施しており、限られた財源で市全体の予算配分を考慮すると、現段階では、予算の増額は難しいのではないかと考えております。

しかしながら、国におきましては、住宅建築物のカーボンニュートラルに向けた住宅の省エネ改修等に係る支援や、省エネ改修等を必須工事とする社会資本整備総合交付金等を活用した住宅リフォーム制度もありますので、本市においても、交付金等を財源とした制度の見直し、予算の拡大について検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 天草市でこういうニーズがあつて、隣の上天草市でニーズがないということは考えにくいと思います。ぜひ、御一考いただきまして、このリフォームの補助金の予算拡大、事業拡大につなげていただきたいと思います。

それでは、最後の質問に移ります。

大矢野川の氾濫による冠水被害への対策についてです。この問題につきましては、昨年6月に、高橋議員、9月に、私も取上げました。大矢野町出身の議員のみならず、この市役所前の冠水対策には強い思い入れがあつて、各自、住民の意見を聞いたり、また、執行部に提案をしたりと努力をされている問題です。

現在、大矢野川の堆積土砂の撤去工事が行われていることは承知しています。また、大矢野川上流部の地形把握のための調査測量業務についても、取り組まれたことも認識しております。

質問に入ります。これら二つの事業を実施した、もしくは、実施途中での段階で見えてきた成果について、市の見解をお伺いします。

○議長（桑原 千知君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山本 一洋君） おはようございます。お答えいたします。

まず、最初に、2つの事業の進捗状況を御報告させていただきます。

土砂撤去工事につきましては、もうおおむね9割以上完了しまして、今月の20日に竣工予定でございます。

それと、委託のほうにつきましては、既に契約を終わりにして、土砂撤去後に現場に入る見込みでございます。工事に着手するに当たりまして、本年1月20日に、冠水対策に係る住民説明会を実施し、大矢野川の現状や今後の取組について、市から説明を行ったところです。参加者の皆さんから、国道を通過する車によって生じる波の被害、川の水位が急激に上昇すること、それと、ユナイテッドトヨタ販売店横の市道橋梁にごみがひっかかり越流することなどの被害報告や冠水の状況、冠水発生の際の要因に係る情報を聞き取ることが出来ました。

また、冠水発生時における国道の早期通行止めの要望を強くされたところでございます。

大矢野川の土砂の堆積状況ですが、ユナイテッドトヨタ付近では、部分的ではありますが、厚さが約1メートル、イエローハット付近では約50センチ程度が確認されました。これらが、大矢野庁舎近辺の水の流れを阻害したものであると思われまふ。土砂撤去が完了すれば、水の流れが改善され、冠水発生の際の抑制に一定程度の効果があると考えております。土砂撤去後に実施します調査測量業務委託におきましては、堆積土砂撤去などの効果があるのか、計算上で確認できるものと考えております。

以上です。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 次の質問です。昨年10月には、市議会と市長及び執行部で、県選出国會議員への要望活動を行いました。要望書の重要課題に、この冠水対策は記載していたと記憶しています。それから5か月が経ちましたが、その後、国県との調整や協議はあったのか。

また、あった場合、その内容は何なのか、お伺いします。

○議長（桑原 千知君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山本 一洋君） 要望活動後の国や県との協議につきましては、今年度、熊本県天草広域本部農地整備課が実施されました広崎地区単県農業農村整備調査計画業務委託の結果の報告を受けた際に、大矢野川の冠水対策について協議をいたしました。業務委託の排水解析の結果、大矢野庁舎周辺の冠水は、賤の女地区の2つの排水機場の能力アップだけでは解消出来ないと推測されるとのことでございました。今後、市が行う庁舎周辺の冠水対策に係る調査測量業務におきまして、庁舎周辺の冠水の要因を検証し、特定し、冠水抑制の方策を選定しまして、農業関係の事業だけではなく、防災減災の事業など幅広く国庫補助事業や県の補助事業を活用について、国や県と協議を続けていくこととしております。

以上です。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 今、答弁の中にも少し出ましたけども、地域としては、積年の懸案であります大矢野川下流部の賤の女地区、広崎地区の排水能力ですね。冠水対策と言ってもいいですが、これについては、どのように進めているのか、最後にお伺いします。

○議長（桑原 千知君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山本 一洋君） お尋ねの賤の女広崎地区の冠水対策につきましては、冠水抑制の重要な施設であります広崎排水機場が設置から40年を経過し、更新時期となっています。老朽化による排水能力の低下が懸念されるため、熊本県が令和4年度に調査計画を実施し、令和6年度の事業着手を目指し、令和5年度中に、事業の採択に向け、国へ事業申請をされることを確認しています。

○議長（桑原 千知君） 何川雅彦君。

○8番（何川 雅彦君） 今年も梅雨の時期を迎えます。気候の変動に伴い、予測不能な豪雨と、それに伴う災害発生には、毎年のように警戒が必要になってまいりました。備えあれば憂いなしの精神で、関係課が連携し、少しでも市民の不安を払拭するような、この取組材料を持って備えていただきたいと思います。

以上で、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（桑原 千知君） 以上で、8番、何川雅彦君の一般質問は終わりました。

ここで、10分間休憩します。

休憩 午前11時09分

再開 午前11時18分

○議長（桑原 千知君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

7番、田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 7番、田中辰夫、一般質問をただいまから行います。

令和4年度におきまして、6月議会と9月議会に一般質問をいたしましたことについての現状とございますか。その後、どうなったのかという観点から質問をさせていただきます。

まず、最初に、令和4年6月議会で一般質問いたしました上天草総合病院関係について、お伺いをいたします。

上天草総合病院におきましては、駐車場の整備についてお伺いしております。その後は、どのような取組があったのか、よろしくお願ひいたします。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） よろしくお願ひします。

令和4年6月議会以後の取組につきましては、駐車場整備に関し、田中議員から御提案がございました病院前の脇浦漁港を埋立てて病院の駐車場にすることにつきまして、龍ヶ岳町の漁協にお尋ねをいたしました。しかしながら、漁協の方といたしましては、埋立てには反対とのこととございましたので、病院事業としましては、当該漁港を埋立てて駐車場にすることは厳しいと考えているところでございます。現在は、障がい者駐車場ときららの里下の駐車場につきましては、確かに満車に近い状況でございますが、そのほかの駐車場については、まだ多少の空きがございますので、今看板を設置して空いている駐車場へ誘導しているところでございます。

今後におきましても、利用者の声を聞きながら、駐車場の整備に努めてまいりたいと考えております。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 昨年12月議会におきまして、建物等調査業務委託料として600万円ほどの予算を付けられました。そこについての利用方法というのが、どのような考え方をされているのか、お願ひいたします。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） よろしくお願ひします。

昨年12月の市議会定例会に補正計上させていただいた土地家屋調査費につきましては、龍ヶ岳地域の避難所として、龍ヶ岳地域振興センターと併せ町民体育館を指定しているものの、駐車場が充足している状況にないことから、将来的に活用の有効性が見込まれる土地等の調査を行うこととしたものでございます。

現在の状況としましては、まず、昨年12月の市議会定例会終了後、調査対象家屋等の所有者と面会の上、業務発注に際して、調査の協力を依頼し、さらに、調査費が高額ではないかとの意見もありましたので、調査内容、費用の精査を行った上で、今月中に業務発注を予定し、本年7月までには調査を終えたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 基本的に、龍ヶ岳の体育館の駐車場という考え方でよかですかね。

○議長（桑原 千知君） 市民生活部長。

○市民生活部長（水野 博之君） 先ほど述べましたように、町民体育館、これが避難所に指定されておりますので、そちらの避難所としての駐車場が充足してないということで、そのように捉えていただければと思います。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 私は、自分勝手に病院の駐車場になるのかなと思っただけで、目的は、町民体育館の避難所となった場合の駐車場というような理解ですね。はい、分かりました。あそこが体育館の避難場所と言われますけれども、あそこも恐らく台風とか何かのときの避難場所としては、あんまり適切でない場所じゃないかなと思っております。

それは別として、私が、病院の駐車場が足りないという観点からすると、あまり進捗していないというような理解で私はおります。そうであれば、病院事務部長さんは、埋立ては無理というお話をされましたけれども、そしたら、解消にどのような、全然まだそれ以外埋立てが出来ないのであれば、何かの方法を探すといいますか、検討されるべきじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） お答えいたします。

まだ検討段階には至っていないんですけれども、一つの方法としまして、駐車場のスペースを有効に生かせるよう、駐車場整理員の配置、その辺りを考えておきまして、駐車場スペースの空いているところに利用者の方を御案内するなどできれば、利用者の方の駐車場を探す手間が省けるのではないかと考えてはおります。そのほかにも、駐車場のスペースを活用できるような取組を今後も検討していければと思っております。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 検討はぜひしていただきたいんですが、もう現実問題として、ずっとこの問題はあがっているんですね。利用者も含めてですね。今から検討して、あと何年後どうなるのかという問題じゃないと思うんですね。

一つは、やはり病院の経営にもかかわってくる問題だと思いますし、この駐車場問題をもう少し早めに前向きな検討をしていただきたい。非常に、もう何回も言いますが、大体1車自体の幅が狭いですよね。そういう状況、今の現代に合った駐車場の形じゃないというのを思いますので、そういう面でもう少し前向きな検討、意見、回答を期待しておったのですが、ちょっと残念でございます。今一度、ここを考えていただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） 議員おっしゃるとおり、利用者の方にも大変御迷惑をかけている状況ですので、前向きに何か有効な手段があるかどうか、職員で検討してまいりたいと思います。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 次に参ります。医師の充足状況。私が質問した当時は、外科医とか何か幾つかの科の先生が不在だったと思います。そういう状況から、現在の状況を、外来患者数ならびに病床利用の状況についてお願いいたします。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） まず、医師の充足状況についてでございますが、令和5年1月現在の医師数につきましては、歯科医師を含めまして17人でございます。不在でございました常勤の外科医師を1月に1名採用することが出来ましたが、手術をするためには、もう1名必要と考えております。また、来年度は、退職により、内科医が1名減少すること及び当院は高齢者の方の受診者が多ございますので、内科医と整形外科医の確保が必要と考えております。

次に、外来患者数についてでございますが、令和5年1月の一日平均延べ患者数につきましては446人ございました。病床利用状況につきましては、1月は新型コロナウイルス感染症の第8波がピークを迎えておりましたので、入院病床は逼迫し、コロナの病床を10床現在有しておりますけれども、1月は1日平均9人から10人の入院患者数がおりましたので、新規の入院の受入れが出来ず、天草管内の医療機関等に受入れてもらったことがございました。現在は、新型コロナウイルス感染症は落ちついているところではございますが、今後も、引き続き、感染拡大に備え医療提供体制を確保してまいります。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） すいませんが、もう1回ですけど、医師の不足の科といたしますか、どこになりますかね。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） 外科と内科と整形外科が不足していると感じておるところでございます。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 外科、整形外科、非常に大事なところだと思います。上天草総合病院にとりましても、やっぱり外科等が手術等を行うところだと思いますので、そういう面では利益といたしますか、上天草総合病院で1番お金の動くところじゃないかなと思いますので、外科、整形外科、ほかに眼科とかいろんな内科も含めて、人気のある先生方とか治療の方法でいい声を聞くこともございます。それで、このやっぱり病院の存続のためには、外科の先生、整形外科の先生、今、事務部長が言われましたとおり、必要性が高いものだと思いますので、今後も力を入れていただいて、大変でしょうけれども、確保によろしく頑張ってくださいませよう、よろしくお願いを申し上げます。

続きまして、病院関係の施設が、もう30年以上経過した当病院の整備計画及び経営計画はあるのか。また、ある場合、示されている内容はということで、よろしくお願いいたします。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） まず、施設の整備計画についてでございますが、当院のほうは、上天草市公共施設等総合管理計画アクションプランに基づき、病院事業の施設ごとに行っているところでございます。各施設の当該管理計画の内容につきましては、主に、保守点検業務を行うこととしておりまして、病院施設では、エレベーター保守点検、自家発電設備点検、建築設備点検等を行いまして、維持管理費として年間700万円。看護学校では、エレベーター保守点検、浄化槽保守点検等を行いまして、維持管理費として年間250万円。きららの里では、消防設備点検、エレベーター保守点検等を行いまして、維持管理費として年間257万円。教良木診療所につきましては、消防設備点検、浄化槽保守点検等を行いまして、維持管理費として年間58万円程度を計上し、各施設の維持管理を行っているところでございます。

また、保守点検後におきましては、修理の必要がある箇所が見つかった場合には、整備計画の見直しを行いまして、当該管理計画に反映し、施設の整備を行うこととしておるところでございます。

次に、経営計画につきましては、総務省から、令和5年度までに、公立病院経営強化プランを策定するよう通知があつていましてございまして、当該年度中に、医師、看護師等の確保と働き方改革、新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組及び経営の効率化等に関する内容の経営計画を策定することとしております。なお、計画の期間につきましては、令和6年度から令和9年度を予定しているところでございます。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 病院関係の施設多数ございます。もう結構年数が経っている建物がありますけれども、今の整備計画のとおりやっていたらと思えますけれども、やっぱりこの気象の変化とかいろいろなことがありまして、傷みも激しいところとそうでないところとあると思えます。整備は計画的にされていかれるんでしょうけれども、随時注意していただいて、傷みの激しいところは、早めに整備できるように。そうしないと、後からだやっぱお金のほうもたくさんかかってくるような状況になりかねないと思えますので、整備計画は定期的に今までやっていると思えますけれども、よろしく願いをいたします。

最後になりますが、病院の関係として、市長に一言、今の質問に対してお願いします。

○議長（桑原 千知君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 上天草総合病院については、民間の方々も入った運営審議会というところもあるので、そこでいろんな御意見をいただいてもいいんじゃないかなと思えます。基本的には、やっぱり独立した公営企業体なので、まずは、やっぱり病院の自助努力というのが、すごく大事だと思います。我々もやっぱり応援をしていく立場にはもちろんあるんですけど、非常に専門性が高くて、やっぱり病院が自主的にやらないといけない部分も多分にあります。ですから、まずは、病院としての経営方針をはっきり示していただいた上で、我々もできる限りの支援をしていくっていう形はこれからもつくっていきたいと思えます。

それと、駐車場については、まだ調査段階なので、今後どうなるかというのは、ちょっと今のところは、まだはっきり申し上げられないところがあるんですけど、もう隣の施設で、同じ公共機関なので、体育館の駐車場として整備したとしても、毎日使うわけじゃないわけで、当然外来というか来院される方の駐車場ができるように、昼間は職員の駐車場にするとか利用方法はあるので、私は前向きに考えてほしいなと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） ありがとうございます。これは、質問に書いておりませんので、答える必要もないと思いますけども、年に1回ぐらい病院のなんですかね。1番偉か人ですね。年に1回ぐらい顔出しをしていただけないものかと、もう私たちもちょっと顔を覚えていない。忘れた頃じゃないかなと思うぐらいなんで、年に1回ぐらいどうにか頑張ってください、この御出席をお願い出来ないものかと思うんですが、どうですか。事務部長さんに申し訳ないですけど。

○議長（桑原 千知君） 病院事務部長。

○病院事務部長（須崎 朝幸君） 事業管理者につきましては、できるだけ開会のときに、1回は顔を出すように言うてはおるところでございますけども、どうしても診療のほうで従事しているところもありまして、ちょっとそちらのほうを今優先して行っているところでございますけれども、次回の議会から、少なくとも1回は出席していただけるよう再度お願いしたいと思っております。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） ありがとうございます。もうお忙しいので、最初から最後までおるっという気持ちはございません。1時間でもよかですから、顔出しをしていただければ、何か自分的には安心する部分がございます。よろしくお願いいたします。

それでは、次に入ります。令和4年9月議会で一般質問いたしました旧姫戸町・旧龍ヶ岳町の持続可能な地域振興及び松島総合運動公園の整備計画についてお伺いをいたします。

旧姫戸町においては、ヤマハ天草製造企業の存続、旧龍ヶ岳町においては、上天草総合病院の存続が基幹産業であると市長が答弁されました。また、地方発展のバロメーターは、一次産業であると発言もされました。さらに、公営住宅の必要性についても述べられましたが、市長当選後、いま一度、それぞれの件について、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（桑原 千知君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 昨年9月に発言をさせていただきましたけれども、その考えには変わりはありません。やっぱり姫戸町地域というのは、もう50年ぐらい前になりますけども、ヤマハ天草製造が誘致されて、やっぱり造船、あるいは、FRPの事業体も協力工場も育成して、やっぱりそこを核に育ってきた地域だというふうに私も思っておりますので、やはりヤマハ天草製造の存続というのは、あの地域にはかなり大きいものがあるという部分は考えておりますので、何とかそういった事業者とともに、地域づくりに取り組んでいく必要があるかと思

っております。

上天草総合病院も、さすがに病院事業なので、基幹産業とはちょっと申し上げられないですけども、大きな雇用先となっておりますので、こちらは今質問があったように、大事な基幹であるというふうに考えています。

一次産業については、やはり地方の役割というか、一次産業の振興は、地方の地域の使命だというふうには思っています。龍ヶ岳町は、特に、養殖事業に携わっている方々も多くて、生産高も上天草市内でもかなりの部分を占めていただいております。そういった意味では、昨年は赤潮被害とかいろいろ非常に厳しい年ではありましたが、これからも継続して水産業が担っていただけるような環境づくりが必要だというふうに考えております。

天草大水害から、もう約50年、約50年というか50年以上になりました。災害の集団移転団地ももう50年近くになろうとしているわけなんですけど、特に、あの借地環境をこれまでずっと継続していきまして、その解消に向けて手続等をやっているところなんですけど、どうしてもやっぱり空き家がふえるとともに、公営住宅もかなり老朽化して、住環境としては決して適切だとは言えない部分が非常に増えてきています。このまま放置してしまうと、やっぱりゴーストタウン化するという可能性も当然出てくるし、昨日、木下議員の質問にも答えたように、決して大矢野・松島地域に比べれば、定住が進んでいる地域ではないので、やっぱり一定程度の公営住宅の整備が必要だと思っています。その上で、住環境の整備を行った上で、一定数の地域の住民が維持できる環境づくりが必要だと思っておりますので、その件を申し上げました。

それで、国土交通省とかPFI事業等を想定して事業の計画等ができるんじゃないかということで、今、検討に入っておりますので、御理解をいただきたいと思えます。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 昨日、姫戸出身の木下議員が、やっぱり地域振興策として、こういういろんな意見を申されました。やはり、もともと町だった姫戸町・龍ヶ岳町、やっぱり地域の皆さん方もなんですけど、ちょっと寂しいな、寂しくなったなというふうな実感があります。やはり同じ市となった町でございます。同じ合併した町でございますので、やっぱり姫戸町・龍ヶ岳町の皆様方が安心して安全で暮らせる。また、いろんな地域の振興策を持って、ますます発展されるように、我々も頑張らなければなりませんし、執行部の方々もそういう気持ちで頑張っていただければと思います。

続きまして、松島総合運動公園の整備、多目的駐車場整備や松島総合運動公園野球場改修工事、松島総合運動公園グラウンド照明設備改修工事について、再度伺います。

今年度の5年度の当初予算に計上されております。いま一度内容といいますか、計画をお願いいたします。

○議長（桑原 千知君） 教育部長。

○教育部長（赤瀬 耕作君） よろしくお願ひいたします。

各事業の内容について、御説明いたします。

松島総合公園の整備で、松島総合センターアロマ多目的駐車場設置工事につきましては、正面玄関前に、屋根付きの多目的駐車場2台分を整備するもので、現在の多目的駐車場は屋根がなく、玄関までの距離も遠いことから、利用者の利便性を向上させるものでございます。

次に、松島総合公園野球場改修工事につきましては、グラウンド内野部の土の入替えや、不陸整正及び老朽化した防護マット並びにバックネット等の改修を行うもので、野球場グラウンドを適正に管理するため、施設を改修するものでございます。

続きまして、松島総合公園グラウンド照明設備改修工事につきましては、水銀灯の製造中止に伴い、電球等の調達が困難になる見込みであることから、消費電力の抑制及び耐久性等を考慮し、陸上競技場、野球場、テニスコートのLED化を図るものでございます。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） 今年度の予算におきまして、多額の予算を投じて整備を行う中、地元企業優先での発注を行う予定であるのか。また、整備後の利用者の利用料金等の変更等は考えられているのか、お願いいたします。

○議長（桑原 千知君） 総務部長。

○総務部長（山下 正君） よろしくお願いいたします。

現時点で、発注する工事の設計書、仕様書等が出来ていないため、発注方法について不確定ではありますが、本市発注の工事につきましては、基本的に、上天草市建設工事等指名方針及び上天草市条件付一般競争入札の取扱い方針に基づき、市内業者で施工可能で、かつ、入札の競争性が確保できる場合は、市内業者を優先して工事を発注しているところでございます。

○7番（田中 辰夫君） もう一つ、整備後の利用料金。

○議長（桑原 千知君） 教育部長。

○教育部長（赤瀬 耕作君） 整備後の利用料金につきましては、現在、電気料金の値上げも想定されますが、今回、施設のLED化を進めることにより、消費電力の抑制も見込まれることから、現時点においては、料金の改定は行わず、現状の利用料金を維持することとしております。

○議長（桑原 千知君） 田中辰夫君。

○7番（田中 辰夫君） これだけの予算を投じますので、総務部長が申されましたとおり、地元企業を優先できる形で発注を行っていただきたいと思っておりますし、利用料金につきましては、据置きみたいな答弁でございました。利用者にとっては、ありがたいことだと思っておりますし、また、LEDに変えるということで、明るさも違うと思っておりますし、今度はエンジンじゃなくて、もう電気での照明ということで考えてよかですかね。

○議長（桑原 千知君） 教育部長。

○教育部長（赤瀬 耕作君） 発電機の老朽化等もございまして、いろいろ支障がございました都合もありまして、直接電力を供給するというところでしております。

○7番（田中 辰夫君） ありがとうございます。松島総合運動公園以外にも、大矢野のほうで

も整備が行われることに、当初予算に上がっております。利用者にとっては、使いやすい環境に少しでもなればと思います。

本日は、ありがとうございました。終わります。

○議長（桑原 千知君） 以上で、7番、田中辰夫君の一般質問は終わりました。

本日の日程は全部終了いたしました。次の本会議は、3月17日午前10時から行います。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散会 午前11時47分